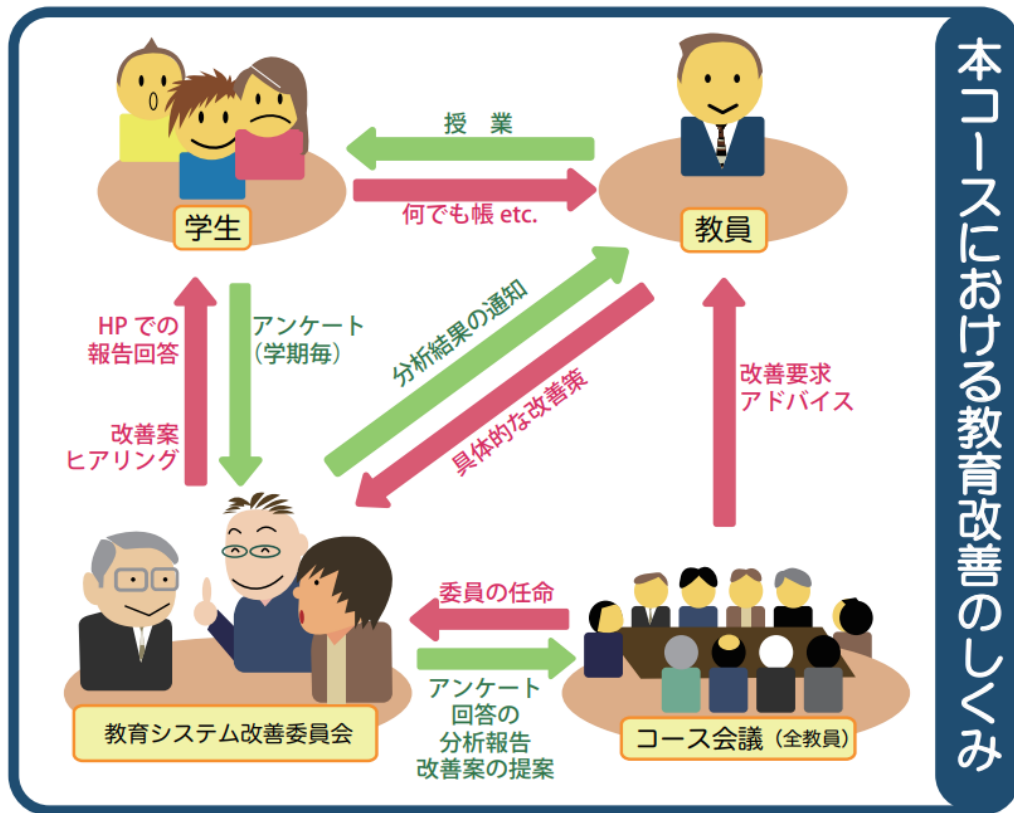


資源循環システムコース
教育システム改善委員会 瓦版
第20号 式千式拾五年七月号

教育システム

改善委員会??



新委員長 から一言

本年度の教育システム改善委員会の委員長を務める大竹です。教育システム改善委員会では、コースの教育カリキュラムが学生の皆さんにとってより良いものになるように、アンケートや座談会を通して学生の意見も取り入れながら改善を図っています。

昨年度変更した点で、研究室配属に係るGPAの計算方法や考慮の仕方があります。具体的には、これまで必修のみの専門科目のGPAをもとに、上位から優先的に研究室配属を行っていたものを、選択科目も含む専門科目のGPAを目安として、研究室教員の意向も聞きながら配属を行うというものです。今年度のアンケート結果には、公平性を期すためにGPAできっちり研究室配属を行なってほしいという意見もありました。その一方で教員としては良いGPAを取ることに縛られすぎず、自分の興味のある学問を受講することや、最終的により多くの学生が満足できる研究室生活を送ってほしいと考えています。

このルールは数年は変更しない予定ですが、次の改訂時には学生の皆さんの声も反映したいと考えていますので、講義に限らずこのような研究室配属や日頃の学生生活の中で感じていることを、どしどしアンケートに書いていただければ嬉しいです。

新委員メンバーの紹介



福田委員



岡田委員

Teacher of the Year (TOTY)

毎年のアンケートで「すばらしかった科目」として高く評価された科目の担当教員は、TOTYとしてコースHPに掲載されています。2024年度の授業に対するアンケート結果から、今回は2名の先生がTOTYに選出されました。

次スライドでは、両先生＋特別ゲストで活躍してくれたTAさん一名からコメントもいただいています！

加藤 昌治先生:応用数学演習I

授業アンケートで高評価を頂き、ありがとうございます。これもひとえに教え方の上手な院生のTAのおかげです。2024年度は雀部さん（生物）と三浦さん（地圏）にお世話になりました。三浦さんとTOTY界のLegend Teacher原田先生と写真を撮る機会がありましたのでここに掲載します。雀部さんは修了してしまっているので写真を撮れずにごめんなさい。

私は昨年10月に旭川高専に移りましたので、この場をお借りして、これまでお世話になりました資源の教職員と学生の皆様、そして応数演習の授業については歴代TAの皆様に厚くお礼申し上げます。

北大の応数演習では微分方程式を解くだけでしたが、高専では、例えば強制振動の実験をして、定数係数非同次線形微分方程式の理論解と実験結果との比較をしたりしています。微分方程式を解くより実験のほうが難しいですね。資源の学生の皆さん、興味がありましたらぜひ高専に遊びに来てください！

原田 周作 先生:流体力学

Teacher of the Year 2024に選出して頂き、誠にありがとうございます。2024年度に流体力学を受講した3年生は、とても印象深い代でした。3人もいるK林君、よくインフルエンザにかかるM君、必ず前の方に座るサッカー部S君とアメフト部S君、席の配置が決して変わらない女子4人、やや遅刻の多い札幌M高校の面々、コールするとレスポンスしてくれるA君やK君。今年もお世話になりました。楽しかったです。

特別ゲスト 三浦 音乃さん:応用数学演習I(TA)

加藤先生、原田先生Teacher of the Year 2024おめでとうございます。応用数学演習のTAをさせていただきました三浦です。TAをするのは初めてでしたが、加藤先生や雀部さん、2年生の皆さんの温かい雰囲気のおかげでとても楽しかったです。ありがとうございます。





新任教員 の紹介

岡田 夏男 先生

2025年4月から資源マネジメント研究室の助教となりました。私はこれまで秋田大→チリ大→北大と3つの大学で学ぶ機会があり、2025年に北大で博士号を取得しています。北大では川村先生、大友先生のもとでたくさんの研究プロジェクトに関わらせていただき貴重な経験を積むことができました。私の専門である鉱山工学は、地質学や化学、物理学、さらには環境科学や経済学・外国語など多分野の知識が融合し、資源の探査から採掘、管理、そして環境への影響評価まで、幅広い課題に取り組みます。そのため、研究室や大学、国などの垣根を超えた協力が大切になってきます。これからは皆さんと協力しながら、一緒に頑張っていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



牛曉博（Niu Xiaobo）先生

このたび、北海道大学大学院工学研究院に特任助教として着任いたしました、牛曉博（Niu Xiaobo）と申します。中国・杭州市出身で、2023年に本学で博士課程を修了し、その後1年半にわたり博士研究員として研究に従事してまいりました。そして2025年4月より、現職に就いております。専門は、低炭素かつ環境にやさしいセメント系材料およびジオポリマー材料の開発と評価です。とくに、放射性廃棄物の安定固化を目的とした地球化学反応の解明や、それに関連する材料の長期性能評価に取り組んでいます。これまで、日本原子力研究開発機構や英国シェフィールド大学との共同研究を通じて、学際的な視点から研究を進めてきました。

ふと振り返ると、来日してから早くも8年が経ちました。右も左も分からなかった最初の頃から、こうして教員として日本で働く日が来るとは、自分でもどこか夢のようで、不思議な高揚感があります。

研究以外の面ではアウトドアが大好きで、北海道の大自然を満喫するのが何よりの楽しみです。とくにオフロードカーが大のお気に入り、最近では自分で愛車をDIYでカスタムすることにも挑戦し、ついに満足のいく仕上がりになりました（ちょっと自慢です！）。また、筋トレにもかなりハマっており、ほぼ中毒レベルで北海道大学のトレーニングセンターに通っています。もし見かけたら、ぜひ気軽に声をかけてください！



Frances Chikanda 先生

My name is Frances Chikanda, originally from Malawi, currently an Ambitious Specially Appointed Assistant Professor in the Environmental Geology Laboratory at Hokkaido University. I am also affiliated with the Institute for Integrated Innovation (L-Station). My academic journey began in Malawi with a Bachelor's degree, and continued in Japan, where I completed both my Master's and PhD programs under the JICA KIZUNA Scholarship at Hokkaido University. After completing my doctoral studies, I took a brief detour from my research to work as an Assistant Language Teacher, providing a refreshing perspective. However, my passion for science led me back to academia as a postdoctoral researcher at the Faculty of Engineering, which brought me to my current position. My research is deeply rooted in the pursuit of sustainable development. I focus on water remediation using naturally available materials, such as ferrihydrite and schwertmannite. Currently, I am also engaged in Enhanced Rock Weathering (ERW) project, a CO₂ reduction technology, and on hydrogen generation from ultramafic rocks—an exciting avenue toward clean energy solutions. I value collaboration and open dialogue, believing that discussions are a powerful tool for connection and innovation. As a mother of three, I am also exploring the evolving balance between parenting and academic life—an ongoing journey that inspires and motivates me. I am enthusiastic about contributing to global scientific efforts and eager to collaborate with fellow faculty members and researchers to learn, grow, and create lasting impact.



コラム

こちら学生アンケートからの話題ですが、アンケートでよく寄せられる意見で、もっとコース内での交流を増やすイベントを作ってほしいというものがあります。

今年度から談話会をもっと活発にしようということで談話会世話人の高野先生や各学年の談話会委員の学生さんを中心に話し合う機会を作ってもらっています。今年度はすでにBBQやソフトボール大会などのイベントが開催され、学生・教員ともに積極的に参加していただきました。

秋からは卒・修論研究も本格化してきて、なかなか時間が取れなくなりますが、資源伝統の学年を超えた縦の繋がりや、研究室の垣根を超えた横の繋がりが、今後も続いていくように企画をしていきたいと思います。

学生の皆さんもこんなことをやりたいというのがありましたら、高野先生や近くの談話会委員の学生さんに相談してみてください。



談話会主催BBQ



ソフトボール大会